

避けて上流に座ることです。是は他人の微菌を避ける爲めです。凡て洗湯の板の間には無数の微菌が居りますから注意して能く洗つて座らなければ危険です。夫れから如何に清潔でも冬などは冷かなる板の間を避けることです、御婦人などには至極危険です。又湯風呂の中で顔を洗ふ人があります。是も極めて危険なことです。上る時には能く乾いたもので身体を拭ふのが宜しいが然もなくば能く締つたので拭いて暫くして皮膚の湿りけのなくなつた頃に着物を著なければなりません。以上は普通入浴に就ての注意であります。すが尚温泉浴海水浴については後號に書くことに致しませう。

▲鐵の盡くる時期 英國ツルネホム教授の計算に據れば世界の鐵鑛に現存する鐵を百億噸と假定して現今毎年發掘する鐵の總量一億噸を以て除くときは世界の鐵は百年を出てすして盡くるに至るべく毎年の使用額増加するに於ては或は五十年を出てすして盡くるに至るべしと云ふ

子供の早熟

和田 實

かとなしい子供、行義のよい子供、伶俐な子供など云ふ御世辭言葉が世の父兄の頭を刺戟した故でもありますまいが、一般に我國の家庭では子供をあまりに作法詰めにあまりに大人風に躰け様とする傾きがあります。其爲めか幼稚園などに子供を出して居る父兄などの中には今度の先生は手技を教へて呉れないからいけないとか。何うも行義作法の躰けが足りないとか云ふ不平の聲を發するものが往々あるをです、又如何はしき幼稚園などにては父兄の御機嫌を損じて退校されては大變と一意歡心を得んが爲めに教育上の利害は措いて問はず只管小六ヶ敷しい手技などを課して半ば以上保姆の手傳つたものを御土産として持歸らせて御坊ちゃんやお嬢さんの成績は斯の通りと自家信用の廣告をして居るものもあるをですが、斯る

人々の目の覺めぬ中は幼兒教育も到底存分に發展をする譯には參りませぬ。従つて今日では年不相當にまけて居る子供即ち幾分か早熟して居る子供と云ふものが身分のよき生活程度の高い家庭に行く程多いと云ふ風であります。是は大いに考へなければならぬ事でありませぬ。勿論、父母の欲目から見ればいやが上にも我子を剛巧にして立派なものに仕上げたいのは誰しも同じ事ではありませぬが、併し子供を年不相當にませさせると云ふのは決して將來に幸福を持ち來たすものではありませぬ。否寧ろ將來には必ず不幸な絶望を持ち來すことになるのですから大に恐なければならぬものであります。早い話が室咲の梅には香がなく其上少し寒い風に當れば忽ちしぼむと云ふのと同じことで身體の方にそれ丈の力のない中に早や既に精神の方面に異狀の發達が來るのですから何處かに不調和な處があり、無理な處があるに違ひないので、是が先に行つて必ず報ひて來て存外な不足な

ものとなるに極つて居るのであります。諺に十で神童十五で才子廿才過ぎては並の人などゝあるのは至極穿つて居ることだと思ひます。尤も此早熟には二種類あつて一つは子供の生來の遺傳から來るものと、一つは、子供の生ひ育つ家庭の境遇及其教育の方法如何によるものとあります。前者は多くは救ふことの出來ないもので後來或は一種の偏人となつたり、或は輕るき精神病者となつたり、甚だしいのになると全く發狂してしまふものなどもあるをです。斯る子どもを持つた時は成る可くは子供を田舎の様な所に移して務めて子供を刺戟しない様にしなければなりません。が、後者は子供には少しも缺點がないのに父兄其他のものが殊更に之を刺戟して早熟させるのですから其罪全く父兄にあるので、我輩が敢えて茲に喋々して大に此弊を矯めたいと思ふ次第であります。そこで尙進んで今少し具体的に子供の早熟な點などを指摘して見ますと第一には言葉遣

ひです、是が一般に羨のよい家庭と云はれる家程、子供の言葉が大人びて居て、恰も老人の集まりかと思ふ程に見えるのが頗る多い。そして話の間に挿む所の感嘆詞などもアアと行く可き處がオヤマアなどとなり、ハ、アと笑ふ可き處もホ、と笑ふ様になるので何となく天真の爛熳を缺て殊更に容姿を繕ふと云ふ様に見えるものです。一体幼児には幼児特別の表情が必要なので言葉なども特別の幼児語があるものですから。是等は或程度迄は許して遣らなければなりません。尤も片言と訛りとは此限りに非ずです。が併し是も極幼稚なものには矢張或程度迄は止むを得ず許さなければなりません。是を全く止め様とするには舌と唇の使用が充分に發達するのを俟つより外はないのであります。即ち漸次に矯正し行くより外はないのです。唯ぞんざいな下等な言葉は成る可く最初から知らしめない方が得策です。一体下等な言葉遣いと云ふものは舌や唇の用ひ方が極簡單で力

強いものですから幼児には容易に覺えられ従つて一度之を覺えると今度は容易に他の優雅な舌回はりの六敷しい言葉には移り難いことになるものであります。故に幼児には最初から丁寧な言葉遣いを覺えさせる必要はありますが、去りとして一概に大人同様な言葉遣ひをさせるのは其思想を早熟させることになるので注意しなければならぬことであります。次には遊戯です。遊戯は子供の生命で之が爲めに子供は發達して行くのでありますから、子供の子供らしい處は悉く遊戯中に表はれなければなりません。然るに動もすると子供の自由な遊戯を殊更に制限して外見を立派に、上品に、そして然も考あるもの様にし様として或はそんなをしては見つともないとか、そんな真似をするものではないとか、斯うするものです、あゝするものですと云ふ様な命令禁止を二六時中絶えず流出させるものがあります。是は詰らぬ話です。命令や禁止で子供を能

くし様とするのは餘程、大きな子供のことで幼児には逆も出来ることではありません。若し幼児が其通りになつて来るとすれば其子供は必ず早熟な子供でませた「こまややくれになるに」極つて居ます。是等の早熟した子供が遊戯して居る所を見ると或は他の子供に餘計な世話を焼いたり或は兄さん氣取りや姉さん氣取りで「そんなこと云ふものぢやないのよ」など、いやに他の行動を批評したりするものです。此様に氣が方々に廻はり過ぎて来ると彼方、此方に氣を配るために益々能く氣の着く子供になり益々才子とはなりません、其代り彼方此方を氣兼するため充分な自己の發展を遂げることが六敷しくなつて遂には録名者にもならずにしまふことゝなるものであります。

故に遊戯中に現はる幼児の活動は出来る丈口舌で以て左右しないで、止むを得ずして、禁止や命令を用ゆる時の外は、成る可く模範に因つて導き模倣力を利用して誘ふと云ふことにしなければなりません。

せん。即ち感化誘導の中に極めて自由に極めて快活に幼児を引き込み不知不識の間に啓發して行くと言ふことにならねばなりません。殊に幼児を極めて鷹揚に上品に育て上げたいと云ふ時には尙更子供を口舌で引き廻はして發達させ様としてはだめです。反省力も發達せず、自覺も充分でない幼児には逆も思考に因つて己れの行動を左右し様など、云ふ考へは無理にも起させられぬものです。故に幼児教育は徹頭徹尾模倣的誘導、無意識的感化と云ふことで進まなければならぬものです。然るに世の幼児教育者には往々にして「斯う云ふ譯だから何々角々の事をしてはいけません」「あなたはなぜそー云ふことをしましたか」と長々と訓戒などして居るものがあります。誠に考のない仕方です。其暇にお伽話しでも聞かせた方が餘程利益であります。

